

Responsible Care NEWS

2015 夏季号



レスポンシブル・ケア®



定時総会が開催されました。



第24回となる日化協定時総会が、5月28日パレスホテル（東京都千代田区）にて開催されました。総会は正会員数256名のうち、237名（委任状出席者173名を含む）の出席のもとで開催されました。小林会長が議長をつとめ、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案の通り承認されました。

議案

1. 報告事項

平成26年度事業報告、収支決算書及び財産目録の件

2. 決議事項

第1号議案 理事補欠選任案の件

第2号議案 監事補欠選任案の件

第3号議案 平成27年度事業計画及び収支予算の件

議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

報告事項

平成26年度事業報告、収支決算書及び財産目録の件

議長の指示により、西出専務理事が、平成26年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月12日実施の監事による監査、5月18日開催の総合運営委員会、5月20日開催の審議委員会、5月27日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して幸後和壽監事が、5月12日に開催した監事会において平成26年度決

算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案 理事補欠選任案の件

次に議長の指示により、西出専務理事が、理事2名の補欠選任につき、各人について、議場に諮りました。議長より、原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、下記の各人について、全員異議なく補欠選任が原案通り可決承認されました。

…………… 記 ……………

理事 山本 謙 宇部興産(株)
代表取締役社長（外部理事）

理事 鈴木 政信 日本化薬(株)
取締役専務執行役員（外部理事）

第2号議案 監事補欠選任案の件

次に議長の指示により、西出専務理事が、監事1名の補欠選任につき、議場に諮りました。

議長より、原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、右記について、全員異議なく補欠選任が原案通り可決承認されました。



開会の挨拶をする小林会長



..... 記

監事 横田 浩 (株)トクヤマ
 社長執行役員 (外部監事)

第3号議案 平成27年度事業計画及び収支予算の件

次に議長の指示により、西出専務理事が、3月16日開催の総合運営委員会、3月18日開催の審議委員会、3月23日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、平成27年度事業計画書及び収支予算書の各案について説明しました。

後、議長は本件原案通り承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り可決承認されました。

閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第24回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感謝し閉会を宣言しました。



第24回 定時総会における 小林会長挨拶



日化協会長の小林でございます。本日は、皆様ご多用の中、ご出席賜りましてありがとうございます。日化協総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。



2014年度、日化協は、会長就任時に申しあげました「安全の強化と水平展開」、「イノベーションの創出と社会への貢献」、「コミュニケーションの更なる向上」をキーワードに各種施策に取り組んでまいりました。とりわけ、「安全」につきましては、現在製造現場を中心に活用いただいている「保安事故防止ガイドライン」を、国内外において更なる理解促進を図るべく、可視化した教育用DVDの日本語・英語版を作成・発行いたしました。加えて、他業界団体と連携し、「産業安全論」講座を開講する等、現場の保安安全力の強化に努めてまいりました。

また、「化学品管理」につきましては、自主的な化学品管理の取り組みを支援するツール「BIG Dr(ビッグドクター)」の一部を本年2月に一般公開いたしました。公開後、従前の10倍以上となる一日当たり最大700件を超えるアクセスをいただいております。また、「会員企業の化学品管理の現状」や「東アジアの化学品法規制の最新動向」といったテーマの講演会を開催し、多数の方にご参加いただく等、社会に広く「コンプライアンスとり

スクベースの化学品管理」を普及・推進する活動に力をいれてまいりました。

「イノベーションの創出」としましては、化学産業におけるイノベーションの創出を担う次世代の人材の支援として、これまで行ってきた大学院博士後期課程の学生を支援するプログラムの改善・拡充を図りました。

「コミュニケーションの更なる向上」としては、実質初年度となった、10月23日の「化学の日」及び「化学週間」において、子ども化学実験ショー、高校や大学での出前授業等各種イベントを行いました。また、5月には国際化学工業協会協議会理事会の日本開催を機に記者会見やリリースを実施し、委員会ごとに広報担当者をもうけ発信力を強化する等、社会とのコミュニケーションの更なる向上に努めました。



2015年度は、気候変動や化学品管理に関する重要な国際会議が開催される予定です。日化協としては、適宜政府や行政に提言を行うとともに、引き続き3つのキーワードを基に、積極的に各種施策に取り組んでまいります。

今後とも、皆様方のご理解・ご支援賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

安全表彰、技術賞、レスポンシブル・ケア賞の表彰式を実施

5月28日パレスホテル東京にて開催されました日化協定時総会に先立ち、日化協安全最優秀賞・安全優秀賞、日化協技術賞(総合賞、技術特別賞、環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞、RC審査員特別賞、RC優秀賞、RC努力賞)の表彰式が執り行われました。今回表彰されたのは以下の方々です。



日化協 第39回安全表彰



安全最優秀賞 (株)クラレ

「安全最優秀賞」

(株)クラレ 鹿島事業所

「安全優秀(特別)賞」

宇部興産(株) 研究開発本部(宇部地区)(特別賞)
SABIC ジャパン(合) 真岡事業所
昭和電工(株) 喜多方事業所
昭和電工(株) 龍野事業所

日化協 第9回レスポンシブル・ケア賞



RC大賞 (株)ダイセル

「RC大賞」

(株)ダイセル 生産技術本部 教育訓練センター：プロセス産業における技能伝承・教育訓練

「RC審査員特別賞」(本年より新設)

住友化学(株) レスポンシブルケア室 RC監査G：住友化学のレスポンシブル・ケア監査改革
三井化学(株) RC・品質保証部：関係会社へのRC活動の展開

「RC優秀賞」

花王(株)：地震対策の取り組み
旭硝子(株) 化学品カンパニー 人材育成グループ：安全実技研修のアジアへの展開
昭和電工セラミックス(株)富山工場：産廃埋立処分量ゼロへの取り組み
三菱化学(株) 水島事業所：「工事協力会社と一体となった安全活動とその成果」

「RC努力賞」

JSRオプテック筑波(株)：JSRオプテック筑波(株)における産業廃棄物削減活動
東ソー(株) 南陽事業所：若手従業員による自主RC活動(TRY！)
日産化学工業(株) 埼玉工場：地域住民との交流事業継続
デュボン(株) サステナビリティ キャンペーンチーム：サステナビリティ キャンペーン
(株)日本化薬福山：安全確保の基本「指差呼称」の定着に向けて

日化協 第47回技術賞



技術賞総合賞 富士フィルム(株)

「総合賞」

富士フィルム(株)：半導体製造用ネガ型有機溶剤現像リソグラフィプロセスの開発

「技術特別賞」

大陽日酸(株)：酸素18安定同位体分離技術の確立と商品化による事業拡大

「環境技術賞」

ライオン(株)・富士電機(株)：世界初、パームヤシ脂肪酸エステル電気絶縁油の開発

from Members

レスポンシブル・ケアの考え方を、他のグループ会社にも展開していきたい

日本カーリット株式会社

爆薬から電子材料、安全性評価まで

——日本カーリットの概要から聞かせてください。

福田 当社の発祥は1916年に浅野総一郎がスウェーデン・カーリット社から爆薬カーリットの製造販売の特許権を取得し、研究開発に着手したことに遡ります。当初は横浜市保土ヶ谷区に工場を建設しましたが、その後、群馬県に移転し、現在は渋川市の群馬工場・赤城工場の2拠点体制となっています。爆薬から派生した技術を利用して発炎筒やロケット推進薬等、火工品・工業薬品の分野で事業を展開してきました。ただし、これらの事業は電力や水を大量に使用するので、最近ではエネルギー多消費型産業からの脱却を目指し、導電性高分子・機能性材料を中心とした電子材料分野にも力を入れています。また、爆薬メーカーとして培ってきた安全性評価技術を生かした化学物質の危険性評価試験、蓄電池の充放電評価試験といった受託評価事業も行っています。2013年10月にカーリットホールディングスを設立して純粋持株会社体制に移行し、当社はグループ内の中核企業という位置付けとなりました。売上高は単体で約150億円、従業員は300名前後です。

——企業理念・方針は？

福田 グループ全体の理念として「信頼と限りなき挑戦」を掲げ、中長期目標として「2024年までに売上高1000億円企業となる」という経営方針を策定しました。



従業員に製品の危険性を体験してもらうため爆発燃焼実験を定期的に行っています

——レスポンシブル・ケアを導入したのは、いつ頃ですか。

福田 ISO9001の認証を1999年、14001を2001年に取得し、2002年にJRCCに入会しました。ISOの認証取得活動の際に文書化や組織・体制の構築、規程類の整備等、一通り完了していたので、レスポンシブル・ケアの導入は比較的スムーズに進んだと記憶しています。爆薬メーカーということもあり、特に安全管理体制には以前から万全を期していた点も大きかったですね。

トップから現場までRCの意識が徹底された

——現場の反応はいかがでしたか。

福田 文書作成や内部監査の充実、RC教育等、仕事量は確かに増えました。それなりに人員・時間・資金も費やしたと思います。そんな中で、従業員は徐々に職務をこなしてくれたと感じています。

——活動内容や社員の皆さんの意識など、変化した点はありますか。

福田 私が群馬工場長だった2005年頃、近隣の他社の工場と環境・安全活動について活発な情報交換を行うようになりました。ちょうど2005年から環境報告書の発行を始めたので、非常に参考になりましたね。また、お祭りなどのイベントの共催、緑化・清掃活動等、地域とのコミュニケーションにも積極的に取り組んでいます。労働安全に関しては、具体的な活動は以前と大幅には変わりませんが、PDCAを回して目標管理を行い、トップから現場まで意識が徹底されたと感じています。研究開発においては、廃棄物削減のための原材料への再生等、従来の性能や価格面に加えて環境・安全に対する技術の比重が一段と増えています。

——具体的な成果は上がっていますか。

福田 電力を消費する電解事業の部門では、これまでの売電及び自家水力発電所(広桃発電所)に加え、グループ会社にソーラー発電設備を設置しました。NOx・SOxの排出量は、ボイラーの燃料転換により大幅に削減されています。また無事故無災害に全社を挙げて取り組み、群馬工場では昨年300万時間を達成しました。



と思っています。



常務取締役 生産本部長 **福田 実さん**

顧客の環境対応製品開発に寄与する

——社会との対話、貢献活動について聞かせてください。

福田 地元自治会や消防学校からの工場見学、群馬高専・群馬大学の学生のインターンシップ受入れ等、地域の方々との交流を活発に行っています。工場を見ていただくことで、当社に対する理解も深まったと感じますね。化学物質や蓄電池の受託評価事業は、お客様の環境対応技術・製品の開発に寄与するもので、社会に貢献できる事業だと考えています。

——自然災害や情報セキュリティに関するリスク管理は？

福田 BCPについてはカーリットグループ全体の規程に基づき、各社の実情に合った体制を整備しています。当社の工場は幸い津波の心配はありませんが、耐震・老朽化対策を進めています。情報セキュリティに関してもグループ全体の管理規程があり、特に受託評価部門等では顧客の技術情報が外部に流出しないよう、万全の仕組みを構築しています。

5S活動の再活性化により原点回帰を

——環境・安全活動とコストの関係はどのように考えていますか。

福田 難しい問題ですが、現状は事業活動とバランスを取りながら実施できていると思います。化学工場である群馬工場から利根川に化学薬品が流出することがあってはなりませんし、赤城工場は火薬を扱っているので爆発等には厳重に対処しています。そういった投資は、今後も積極的に行っていくつもりです。

——現在、力を入れている活動は何ですか。

福田 今年度から、5S活動の再活性化に取り組んでいます。グループ内に非常に熱心な会社があり、日本カーリットとしても従業員の意識改革や事故・災害、クレームゼロを目指して、原点に返ろうということですね。事業関係では、自動車に搭載されている発炎筒の廃車時の発火防止のために、産業廃棄物の広域認定を受け、廃発

炎筒の回収を全国規模で行っています。

——今後の目標を聞かせてください。

福田 カーリットホールディングスとして8つのCSR基本方針を定めていますが、環境保全や情報開示・地域貢献等、レスポンシブル・ケアの理念と共通する部分が非常に多いと思います。以前から化学産業の一員としてRCを推進してきた当社は、最も活動内容が充実している訳ですから、レスポンシブル・ケアの考え方を他のグループ会社にも何らかの形で展開し、より一層、社会に貢献できる企業としていきたいと思っています。

——日化協に対する要望はありますか。

福田 今後、グローバル化が益々進展する中で、日本の化学産業の競争力を高めるために、国際的な発言力の更なる強化をお願いしたいですね。



国道沿いの歩道の除草作業を定期的に行っています



地元自治会の工場見学を受入れています

事業所の概要

株式会社クレハ 樹脂加工事業所(茨城)は、茨城県小美玉市に立地し、「NEWクレラップ」をはじめ、食品包装用フィルム、プラスチック容器等の樹脂加工製品を製造しています。1969年2月、呉羽プラスチック株式会社として創業後、株式会社クレハに統合され現在に至るまで、独自の樹脂加工技術を駆使し、優れた食品包装材料等の製造を通じて社会に貢献することを使命として、事業に取り組んでいます。特に製品の衛生性を確保するため、異物混入対策(異物検知カメラ、金属検知器の導入等)、防虫対策(工場の密閉化、暗室化、陽圧化等)に力を入れています。



事業所全景

レスポンシブル・ケア活動

当社では、社長方針であるPassion(熱意)、Speed(スピード)、Commitment(粘り、拘り)を合言葉に、当事業所としてISO9001、ISO14001、OHSAS18001を活用した継続的な活動を通じて、全部署一丸となって「安全で、ハッキリ、スッキリ、ピカピカの職場」の実現を目標に操業しています。

<保安防災>

事業所の最も重要な責務として法令遵守にとどまらず、自主的な管理基準の設定や設備の予防保全に取り組むとともに、毎年、公設消防機関にも参加いただき、防災訓練を実施しています。2014年度には、社長による保安査察を実施しました。社長から事業所の全員に対して、保安防災が最優先課題であり、絶対に事故や災害を起こさない強い意志を持つことが求められました。今後もこれらの活動を継続し、事業所員一同が安全第一を肝に銘じ、地域の信頼に応えられるよう日々保安防災に努めていきます。

<労働安全衛生>

「自分の身を守り、仲間の身を守る。それは家族や地域社会を守ることに繋がり、地域から真に信頼を得ることに繋がる。」をスローガンに、人身事故をはじめとした各種事故の発生リスクを撲滅するため、リスクを抽出し、対策を立案・実行しています。ハード面では、製造ラインでのカッター刃

の脱落防止、製造装置の中に作業者が手を入れると装置が自動的に停止する機能の付加などの安全対策を順次進めています。ソフト面では、指差呼称活動や安全衛生優良者表彰など、従業員の安全意識の向上も並行して進めています。今後も継続してリスクの抽出を行い、事故発生リスクの徹底した低減を目指します。

<環境保全>

事業所からの大気や河川への有害物質の排出を防ぐため、専門委託先や自社にて適時環境測定を実施し、適切な管理をしています。また、製造工程で発生する樹脂屑をグループ会社の製品に使用する原料として提供するなど、リサイクル推進ならびに廃棄物の削減にも取り組んでいます。

地域とのコミュニケーション

毎年8月に開催される「小美玉市ふるさとふれあいまつり」に出店しています。2014年度にはまつり当日に開催される豊年踊り大会に初めて参加し、準大賞を受賞しました。また、「霞ヶ浦クリーンウォーキング」と称した事業所から霞ヶ浦までの沿道と湖畔の清掃活動を年2回実施するとともに、2年前からクリスマスシーズンに、場内や道路に面したフェンスをイルミネーションで飾り、地域の皆さんが思わず立ち止まるようなふれあいの場を提供しています。今後も地域行事に積極的に参加し、地域の皆様との交流に努めます。



小美玉市ふるさとふれあいまつり



事業所イルミネーション

事業所の概要

当社は、酸化チタンに代表される無機化学事業と農業を主力とする有機化学事業を通して、社会に様々な価値を提供しています。四日市工場は当社唯一の国内生産拠点であって、三重県四日市コンビナートに位置しています。1938年に建設に着手し、1941年に銅の精錬工場として操業を開始しました。現在では酸化チタン・機能材料・濃硫酸・農業・有機中間体など、様々な製品を製造しています。安全・安心のもと、高品質の製品の安定供給、万全の環境監視体制を整え、地域社会や地球環境との調和を第一に考えた製造に努めています。



総合事務所

レスポンシブル・ケア活動

【環境保全】

環境情報の透明化の一環として、工場の事業活動に伴い発生した排ガス、排水、廃棄物等の処理状況を四半期ごとに当社ホームページに公表しています。また、2009年より守衛本部前に、排ガス中のNOx値と排水の総量規制に係る項目(COD、窒素、りん)の濃度結果等の情報を「ISK 四日市工場・環境情報標示板」にリアルタイムに表示しています。従業員や来場者への情報提供を通して、環境意識の向上を目的としたものです。



環境情報標示板

四日市工場における土壌・地下水汚染について学識経験者の指導を得ながら調査、修復に取り組むことを目的として、2008年に第三者による「環境専門委員会」を設置しました。現在では調査をほぼ終了し、修復に向けた取り組みをスタートさせています。たとえば重金属(ヒ素)汚染地域に対しては、地下水汚染の拡散防止対策として、16本のバリア井戸(汚染拡大防止のための地下水くみ上げ井戸)から地下水をくみ上げ、揚水浄化処理設備にて浄化処理しています。



【労働安全衛生】

2015年は「一人ひとりが責任者 高めよう安全意識 みんなで作ろう 安全職場」を安全スローガンとして掲げ、リスクアセスメント、安全衛生巡視等を行い安全衛生管理の強化に努めています。

【保安防災】

四日市工場では、2008年5月28日に発生した重油タンク爆発事故の教訓を将来に亘って活かすため、毎年5月28日を『四日市工場特別防災訓練の日』として制定し、地元の皆様に一般公開し、四日市市南消防署と合同訓練を行っています。

地域とのコミュニケーション

「石原産業グループ構成員行動規範」では行動基準の一つとして「企業活動の透明性を保つため、企業市民としてコミュニケーションを重視し、企業情報を適時・的確に開示する」と定めています。これらを具体的実践するため、四日市工場に社長室直轄の組織として四日市広報部を設置し、地域社会との共生に向け地域との交流、積極的な情報公開など様々な活動を行っています。

たとえば、一般公開の工場見学会を2008年度以降、年1~2回の頻度で開催しており、地元の皆様を中心として毎回15~30名程度の参加をいただき、地域との交流を深めています。また、地元中学校からの要請に応じて、別途工場見学の受け入れや職業体験学習として特別出前授業なども行っています。

2009年1月からは、地域コミュニティ誌「きずな(塩浜地域の皆様へ)」を年2回発行し、当社四日市工場の方針や地域との取り組み・コミュニケーションについて地元自治会を通じて地域の皆様に積極的な情報発信を行っています。



地域コミュニティ誌「きずな(塩浜地域の皆様へ)」(表紙写真は特別防災訓練の様様)

日化協シンポジウム 2015

年に1度の日化協総会に合わせ、2013年度より「日化協シンポジウム」を開催しています。

2015年度は5月28日にパレスホテルにて開催し、約220名の会員の皆様にお集まりいただきました。

シンポジウムは全体を2部構成とし、第1部では「安全表彰」、「レスポンシブル・ケア賞」、「技術賞」の受賞講演を行い、会員間でのベストプラクティスの共有を行いました（レスポンシブル・ケア賞の詳細は次頁をご覧ください）。また第2部では「イノベーションをどう考えるか」をテーマにパネルセッションを開催し、日刊工業新聞社山本論説委員をモデレータに、BASF ジャパン



株式会社、富士フイルム株式会社より特別講演をいただいたあと、化学産業のイノベーションのあり方についてディスカッションを行いました。

日化協シンポジウム 2015 プログラム

第1部

- 安全表彰受賞講演 (総評：田村 昌三東京大学名誉教授)
- レスポンシブル・ケア賞受賞講演 (総評：平尾 雅彦東京大学大学院教授)
- 技術賞受賞講演 (総評：御園生 誠東京大学名誉教授)

第2部

パネルセッション～イノベーションをどう考えるか～

- ・特別講演Ⅰ「BASFのイノベーション～次の150年に向けて～」
BASF ジャパン株式会社 副社長執行役員 大津 武嗣氏
- ・特別講演Ⅱ「オープンイノベーションに向けた富士フイルムの取組み」
富士フイルム株式会社 取締役 執行役員 R&D 統括本部長 浅見 正弘氏
- ・ディスカッション
モデレータ 日刊工業新聞社 論説委員兼編集委員 山本 佳世子氏



BASF ジャパン社の大津副社長のご講演では、一例として adidas 社と BASF のコラボレーションによるスポーツシューズのイノベーション事例を用いながら、「共創（コ・クリエーション）」というイノベーションに対する同社のコンセプトをご紹介いただきました。今年、創業150周年を迎える BASF は、次の150年の持続可能な成長を目指すために、以下の3つの分野を設定し新たなソリューションを創造していくとのことです。

1. 都市生活

例：飲料水を安定して供給するには？

2. 食品

例：フードロスを防ぐには？

3. スマートエネルギー

例：エネルギーの貯蔵を改善するには？

また富士フイルム社の浅見取締役のご講演では、2000年をピークにダウントレンドに入ったカラーフィルムの世界需要急減の中で、同社がどのように事業構造変革を図ったかを迫力をもってお話しされました。同社において、根底にあるのは「フィルムへのこだわり」で

あり、「包む、保護する」、「表面特性」、「透過性」、「積層性」といったフィルムが持つ多様な機能を、ヘルスケア分野（化粧品、医薬等）や高性能材料分野（機能性光学フィルム、ハニカムフィルム等）へ応用した事例等を、写真やグラフを用いて丁寧にご説明いただきました。

同社では、未来に向けて価値を共創する試みとして「富士フイルム Open Innovation Hub」を2014年に設立し、お客様とのインタラクティブな対話を重視していくとのことです。

パネルディスカッションでも話題になりましたが、両社から「共創」をいう同じキーワードが出てきたように、これからのイノベーションでは企業を取り巻く様々なステークホルダーとのインタラクティブな対話や活動が、ますます重要になってくるものと思われます。

積極的にイノベーションを展開する企業の中から、グローバル化学企業を代表して BASF ジャパン社、日本の化学企業を代表して富士フイルム社にお話をいただき、また山本論説委員からは様々な角度から論点のご提供をいただき、大変中身の濃いパネルセッションとなりました。

「第9回 日化協レスポンシブル・ケア賞」の 受賞講演が行われました

5月28日開催の「日化協シンポジウム2015」において、第9回日化協レスポンシブル・ケア賞・RC大賞を受賞された(株)ダイセルおよびRC審査員特別賞、RC優秀賞を受賞された5社の各代表の方々から受賞講演(活動内容の紹介)が行われました。



賞名	受賞者	受賞テーマ	活動の概要
日化協 RC大賞	株式会社ダイセル 生産技術本部 教育訓練センター 福西 邦男、原野 嘉行、角 正寛、 内山 敦、渡邊 弘、倉俣 修一、 森本 義昭	プロセス産業における技能伝承・教育訓練	「ダイセル式生産革新」の定着・維持を目指し、教育訓練センターを2002年に設立した。自社に適合したカリキュラムの作成や化学プラント運転を体感できる小規模プラントの整備などを行うとともに、種々の備品類の教材も充実させた。オペレーターの全階層、技術者、生産関連部門管理職を教育対象としており、2014年度末までの受講者数は延べ4,200人に達している。
日化協 RC審査員 特別賞	住友化学株式会社 レスポンシブルケア室 RC 監査 G 相原 正和、佐藤 邦久、佐藤 潤、 佐々木直行、中野 一美	住友化学のレスポンシブル・ケア監査改革	レスポンシブル・ケア監査の抜本改革に取り組んだ。潜在リスクの発見、監査後の改善推進、課題解決へ向けた技術支援、更には人材育成機能を加えた監査とすることで、住友化学グループ全体のRCマネジメントにおいて重要な役割を占めるまでに至っている。
	三井化学株式会社 RC・品質保証部 松本 規雄、三橋 智子、荒柴 伸正、 張 潤北、小出 哲裕、森本 勉、 伊藤 佳行、渡辺 晃彦、石川 聡、 半沢 昌彦、鈴木 賢司、土肥誠太郎	関係会社へのRC活動の展開	当社グループ全体のRC活動推進のため、国内・海外の関係会社の支援を行っている。RC世界憲章の改訂を契機に、そのコミットメントを当社グループ全体に浸透させるため、関係会社の宣言書として「汐留マニフェスト」を作成し、各社トップのリーダーシップによるRC活動推進をより一層明確にした。
RC 優秀賞	花王株式会社 四十物 清、佐々木義雄、村井 智明、 曾 維平、岡 宏和、平野 清	地震対策の取組み	花王では1998年より建屋の耐震補強、高圧ガス設備・危険物貯槽(特定タンク)の液状化対策、危険物・毒劇物取扱設備からの漏洩対策を実施しており、工場の安全/安定生産に貢献している。
	旭硝子株式会社 化学品カンパニー 人材育成グループ 玉川 徹、中田 清、平岡 正司	安全実技研修のアジアへの展開	当カンパニーでは独自の安全実技教育を開発し、マスタートレーナー制度などの工夫で現場に根付かせ、国内主要工場で年々充実・発展させて、海外関係会社への展開を図った。インドネシアの関連会社では、独自の安全文化が根付くに至り、地域の模範となっている。
	三菱化学株式会社 水島事業所 亀山 高広、幸 靖、大森 勇	工事協力会社と一体となった安全活動とその成果	三菱化学(株)水島事業所では、1978年より事業所と協力会社とが連携した安全活動を展開してきた。この活動を継続するとともに、より充実化、重点化して取り組んできた結果、協力会社の安全成績は2011年12月4日以降ゼロ災を継続している(2015/6/8現在)。

受賞講演



ダイセル
福西さん



住友化学
相原さん



三井化学
松本さん



花王
四十物さん



旭硝子
玉川さん



三菱化学
水島事業所

平成27年度安全シンポジウムを開催

平成27年度の第39回日化協安全最優秀賞、安全優秀賞が決定し、6月19日に安全シンポジウムを発明会館（東京虎ノ門）にて開催しました。開催にあたって日化協の西出専務理事と厚生労働省労働基準局の角田化学物質評価室長よりご挨拶をいただき、続いて受賞事業所の活動事例発表を行いました。

活動事例発表



松崎氏

株式会社クラレ

鹿島事業所（松崎 事業所長）

- ・当事業所は鹿島東部コンビナートの一角に位置し、高圧ガス、危険物、毒性ガスを多量に扱っています。操業から42年経過し、外海も近いことから、設備・配管の腐食及び老朽化のリスクが年々増加しています。
- ・「安全はすべての礎」という理念の下、当事業所では「10年間無事故・無災害を狙える事業所を目指した体質作り」を目標に掲げ、安全活動に取り組んでいます。
- ・「労働安全衛生」「保安防災」「技術・技能伝承」「交通」「コミュニケーション」を活動の5本柱に据え、安全活動に取り組んでいます。「安全活動は“自分の身を守り、部下の身を守り、仲間の身を守る”ためのものである」との想いを全員が自覚するために、トップ、管理職、現場の管理者はその想いを発信し続けていくことが責務だと思っています。



宮田氏

宇部興産株式会社

研究開発本部（宇部地区）（宮田 企画管理部部長）

- ・当地区には5研究所と1研究室が集約されています。使用する試薬・機器が多種多様で非定常作業が多いことから小さな事故が起こりやすい、また安全意識と技量に個人差が生じ易い、という研究部場ならではの弱点があります。
- ・こうした弱点に対して、安全活動としてOHSAS18001活動によるリスク評価と低減、職場間相互作業パトロールによる安全レベルの底上げ、職場（実験室）ハザードマップの作成と掲示、さらには試薬管理システムの運用、体感安全教育の実施、安全力量評価等に取り組んでいます。
- ・安全衛生委員会及び職場安全会議の充実、安全活動の職場交流の促進（強み・弱みの認識）、さらには自律的安全活動の推進（OHSAS18001活動）を通して、今後も「完全安全研究所」を目指していきます。

パネルディスカッション



田村安全表彰会議議長

事例紹介に続き行われたパネルディスカッションでは、田村安全表彰会議議長の司会で事例発表いただいた各事業所代表と日化協の春山常務理事がパネリストとして参加し、「いかにして無災害を継続するか」をテーマに、トップの果たすべき役割を中心にご討議いただきました。

討議では、一つ目として事業所のトップとして安全に関して注力していること、二つ目として人材育成・技術

伝承について重視していること、三つ目としてこれまで無災害を継続できたポイントについて、それぞれ発表者よりご発言いただき、意見交換が行われました。

続いて会場からのアンケート質問に対して発表者の安全に関するトップの考え等についてご紹介いただきました。質問の内容は多岐にわたり、これに対して発表者より丁寧なご回答をいただきました。

討議の結びに春山常務理事より討議全体に対する感想と今後の協会としての取り組みについて発言がありました。最後に田村議長より閉会のご挨拶をいただき、全員で安全活動の重要性を再認識し閉会となりました。



清野氏

SABIC ジャパン合同会社

真岡事業所 (清野 事業所長)

- ・ SABIC 社は世界各国に事業を展開しており、当事業所は日本国内における製造拠点です。
- ・ 安全活動として、SABIC 全社統一の安全・衛生・環境・保安のマネジメントシステム SHEM (Safety Health Environmental Management System) 活動を当事業所でも展開しています。この活動は、教育訓練活動と安全教育、交通事故防止活動、保安防災、健康管理活動等、非常に多岐にわたる 18 のサブエレメントから構成されています。
- ・ 他には、環境保全活動 (SABIC2025: 電気、水の使用量、廃棄物を 2025 年までに 2010 年比で削減) や地域とのコミュニケーションにも注力しています。



照田氏

昭和電工株式会社

喜多方事業所 (照田 事業所長)

- ・ 当事業所ではアルミ鍛造用材料及び鍛造品を製造しています。「工場をショールームに」をコンセプトに、すべてのステークホルダーに「安心される工場」「信頼される工場」「感動される工場」を目指しています。
- ・ 「創る安全」を目標に、ISO14001・OHSAS18001 統合マネジメントシステムと TPM を安全活動と連動させています。
- ・ 安全活動として、評価基準の見直しや安全パトロール実施等による潜在リスクの抽出、クレーン操作教育や危険体感訓練による危険感度の向上、計画的な設備改造による設備の本質安全化に重点的に取り組んでいます。安全活動に終わりはなく、今後も地道に取り組んでいきます。



前田氏

昭和電工株式会社

龍野事業所 (前田 事業所長)

- ・ 当事業所は当社機能性高分子部の西日本における生産拠点です。過去の災害の特徴として、挟まれ・巻き込まれと切れ・擦れによる労災が過半数を占めています。
- ・ 安全活動として、安全意識向上と設備対策、さらにはシステム改善を重点項目に取り挙げて活動に取り組んでいます。
- ・ 安全意識向上については、ヒヤリハット活動、過去の災害事例活用、緊急処置異常訓練、安全体感教育 (高所、玉掛け、回転体、電気) 及び安全衛生教育というように非常に多岐にわたる活動を展開しています。また設備対策については、災害・事故事例の横展開、TPM 自主保全活動及び本質安全対策に取り組み、さらにシステム改善については、創る安全活動、リスクアセスメント活動、管理職パトロール及びコミュニケーション推進・声掛け活動に取り組んでいます。



平成 27 年度

上期会員交流会

7月13日に関電会館エルガーデンで上期会員交流会を開催しました。まず、第9回RC賞を受賞されたテーマよりRC大賞「プロセス産業における技能伝承・教育訓練」（株式会社ダイセル）とRC審査員特別賞「住友化学のレスポンスフル・ケア監査改革」（住友化学株式会社）の2件をご発表いただき、その後、4分科会に分かれて意見交換を行いました。このほかに、RCLG副議長・APRO議長である岡野恭介氏（昭和電工株式会社）と日化協事務局より「世界におけるRCの潮流と日化協のRC活動」についても紹介しました。



全体会議（日化協のRC活動紹介）

（1）労働安全衛生（人材育成）[参加者9名]

座長：海宝 栄夫（株式会社カネカ）
副座長：豊原 秀史（日産化学工業株式会社）
話題提供：内山 敦（株式会社ダイセル）

討議概要

分科会への参加会員企業7社に1) 技能伝承、2) 安全教育、3) 教育訓練センター、4) 教育プログラム、について事前にアンケートを実施し、当日はその結果に基づき各社の取り組み状況を意見交換する形式がとられました。1) 技能伝承については、災害事例集の作成、ベテラン社員の活用事例などが紹介されました。2) 安全教育については、階層や職種別にプログラムを用意し体系的に取り組んでいる会社が多かったです。RC大賞を受賞した株式会社ダイセルでは製造課長職にも実習を含むプログラムが用意されていることが紹介されました。3) 教育訓練センターについては、施設規模は様々ですが設置している会社が多く、安全教育と連携した研修プログラムが準備されていることが報告されました。時間の関係上アンケート項目すべてについて討議できませんでしたが、会員各社と有意義な意見交換をすることができました。



海宝氏



内山氏

（2）RC監査（会員各社の取り組み状況）[参加者8名]

座長：北村 義和（株式会社ダイセル）
副座長：木村 昌敏（三菱化学株式会社）
話題提供：佐藤 邦久（住友化学株式会社）

討議概要

参加各社のRC監査の現状や、RC監査に関わる課題などについての情報共有、意見交換を行いました。分科会ではまず、話題提供された「住友化学のRC監査改革」について質疑応答を行い、内容をより詳細に理解しました。次に、事前に行ったRC監査体制・監査要領、RC監査での工夫や悩みなどについてのアンケート回答について、各社よりの補足説明や質疑応答を行い、お互いのRC監査の実態について理解を深めました。また、RC監査結果を社内でのどのように共有し経営に生かしているかなどRC監査のシステム的话题から、実際のRC監査において、現地監査と書類監査との使い分けをどのように工夫しているか、などのより実践的な話題まで、幅広い内容について意見交換を行いました。さらには、事業に直接役立ったRC監査の指摘事例なども提供され、参加各社とも今後の自社におけるRC監査に生かせる貴重な情報を得ることができました。



北村氏



佐藤氏



分科会

(3) 労働安全衛生〔リスクアセスメント（改正安衛法対応）〕〔参加者 10 名〕

座 長：松野 博明（三井化学株式会社）
副 座 長：田代 宏（住友化学株式会社）
話題提供：小野 恵史（住化バイエルウレタン株式会社）

討議概要

安衛法改正の公布があり、一定の危険性または有害性が確認されている化学物質 640 物質についてリスクアセスメントの実施が義務化されることになりました。話題提供者の住化バイエルウレタン株式会社より、本改正の背景、同社における対応状況の紹介がありました。

それを受けて、分科会参加各社より、自社における化学物質のリスクアセスメントの準備・実施状況を説明していただき、その中で課題と感じている点や困っている点などを出し合って意見交換を行いました。厚労省より例示されている「コントロールバンディング」を利用している会社、さらに「作業環境測定」の結果を組み合わせる定量的な評価を行い、評価結果に応じた対策決定まで行おうとしている会社の説明がありました。また、研究所では取扱っている化学物質の量は少ないが種類が非常に多いことから、どのようなリスクアセスメントが可能か？といったことが意見交換されました。



松野氏



小野氏

(4) 環境保全（廃棄物削減）〔参加者 8 名〕

座 長：大成 英之（株式会社カネカ）
副 座 長：幸尾 保高（三菱レイヨン株式会社）
話題提供：西川 英次（関西ペイント株式会社）

討議概要

本分科会では廃棄物処分していたケミカルドラムを有価物とした、関西ペイント株式会社平塚事業所の廃棄物削減活動の話題提供を受け、各社の廃棄物削減の取り組みについて意見交換を行いました。各社とも廃棄物削減目標を掲げて取り組んでおり、その問題点として、①廃棄物の有価物化を現状以上に進めるための方法、②産廃処理費用が安価な埋立て処分量削減と埋立てをその他の産廃処理に持って行った場合の費用増との兼ね合い、③建築廃材や塩化物などの処理困難な廃棄物の対応の 3 項目は各社ではほぼ一致した問題となっており、それらの対応状況について討議が行われました。また廃棄物処理の規制に関わる問題、PCB処分の問題などについても話題が出され、有意義な分科会となりました。



大成氏



西川氏



A P R O 会 議

APRO（アジア・太平洋レスポンスブル・ケア機構）定例会議を、カンボジアのシェムリアップにおいて、AMEICC（日・ASEAN 経済産業協力委員会）の日程に合わせて2015年6月26日（金）に開催しました。

今回のミーティングには、マレーシア、インドネシア、フィリピン、韓国、ミャンマー、日本（議長協会）の6協会が参加し、プロセス安全指標（PSM）タスクフォースへの対応と11月にフィリピンで開催されるAPRCC（アジア・太平洋レスポンスブル・ケア会議）について活発な議論が行われました。

PSMに関しては、既に報告の通り本年4月のマイアミにおけるRCLGミーティングでタスクフォース案が承認されましたが、同案はその後ICCA運営委員会を経て最終的に6月3日に行われたICCA理事会で承認され、実施に移される運びとなりました。会議においては、日化協から承認に至るまでの議論の経緯について、質疑応答を交えながら詳しく説明しました。これに対し、参加メンバーから、途上国では様々な業態の会員企業を抱えており、特に中小企業がPSMをスムーズに実施できるかについて懸念する意見が出されました。これを受け、今後RCLGが実施ガイドライン案を作成することになっており、案作成の過程でAPROメンバーが

RCLGに対して積極的に意見を述べるよう促しました。また、今後の実施の参考にするため、各国のプロセス安全データ取得の実情について調査してはどうかという意見が出され、これについては日化協が事務局として対応を行うこととしました。

APRCCについては、ホスト国であるフィリピンの協会から、準備状況について詳しい説明がありました。APRCCは、アジア・太平洋地域の協会が持ち回りで2年に1回開催している一大イベントで、今回の第14回会議は、マニラ近郊のパサイ市で11月5日から7日まで開催されます。（11月5日～6日：本会議、7日：プロセス安全ワークショップ）本会議には、アジア・太平洋地域の各国を中心に300名以上が参加する予定で、RC30周年、各国協会からの報告、化学品管理、物流安全、プロセス安全、環境と地域住民とのコミュニケーション、及びセキュリティーの7セッションで発表・討議が行われます。日化協も本会議開催を積極的に支援しており、RCLG副議長兼APRO議長の岡野恭介氏（昭和電工㈱）よりRC30周年のセッションで発表が行われる他、本会議で2名、プロセス安全ワークショップで1名が発表を行う予定です。



会場となったル・メリディアン・アンコール



参加メンバー



日化協LRI賞について

日化協 LRI (Long-range Research Initiative = 長期自主研究) は、「化学物質がヒトの健康や環境に与える影響を評価する」目的で設立された研究助成制度です。会員企業の皆様にとってメリットとなる成果を目指して、本年度は 18 課題に対して助成を行っています。一方、課題を採択している研究者以外にも、LRI の目的や方向性を共有できる研究者は沢山いるはずで、中でも、特に若手の研究者を支援していくという主旨で「日化協 LRI 賞」の設置を検討してまいりました。LRI 賞については Cefic (欧州化学工業連盟) で前例があります。Cefic では、SETAC (the Society of Environmental Toxicology and Chemistry)、EUROTOX (the Association of European Toxicologists and European Societies of Toxicology)、ISES (the International Society of Exposure Sciences) 及び Chemical Week が協賛する賞金額 € 100,000 の一大イベントとして 2004 年から実施されています。日化協 LRI 賞を設置するに当たり Cefic の例を参考にしましたが、同じことをするのではなく、日本に合ったより効果的な実施方法を模索してまいりました。その結果、日本毒性学会のご理解、ご協力のもと、同学会内に「日化協 LRI 賞」を新たに設立することとなりました。日本毒性学会の学術広報委員会の中に「日化協 LRI 賞選考小委員会」を作り、そこに本賞の選考を委嘱いたします。本年は、3 月下旬から 4 月上旬にかけて、日本毒性学会のウェブサイト上で公募を行いました。その後、小委員会において各応募者について専門的な立場からの厳正な審査を行い、選考さ

れた受賞候補者を日化協 LRI に推薦していただきました。日化協 LRI では、事務局並びに運営委員会議長が推薦された研究者の確認を行った上で、第 1 号の受賞者として国立医薬品食品衛生研究所の北嶋聡先生を正式に決定し、さる 6 月 30 日、第 42 回日本毒性学会学術年会 (金沢) において表彰いたしました。

なお、8 月 28 日 (金) ベルサール神田において開催される LRI 研究報告会において受賞記念講演を予定しております。本報告会はどこへでも参加いただけますので、是非、足をお運びください。受賞された北嶋先生には、今後とも毒性、環境評価分野での一層のご活躍を願うとともに、LRI に対する良き理解者として、末永くお付き合いをいただきたいと思います。

今回の LRI 賞に関して、まずは研究分野として関係の深い日本毒性学会での設立となりましたが、今後は同じように LRI の研究対象である環境分野、実験動物代替法分野でも関連学会と連携を取り、新たな LRI 賞の設置を検討していく予定です。

日化協 LRI としては、賞を通じて優秀な若手研究者との関係を構築することにより、研究推進上の協力者を確保すると同時に、研究分野の幅も広げていきたいと考えております。今後とも、会員企業の皆様の一層のご理解、ご協力をお願いいたします。



『なぜなに？かがく』

「夢・化学-21」委員会は、主に小学校1年生から4年生を対象に、理科（化学）のおもしろさを感じてもらうために、かがく実験教室を開催しています。

昨年度までは「夢・化学-21 わくわく理科・実験教室」として実施してきましたが、子どもたちに「かがく（化学）」を意識してもらえるよう、今年度より「なぜなに？かがく実験教室」と名称を変更しました。

中学校や高校・大学の先生による本格的な直接指導のもと、かがく（化学）の実験や工作・観察等を通して、かがく（化学）の持つ不思議を体験し、「なぜそうなるのか」への理解を深めるとともに、「かがく（化学）」への興味を持っていただくことを目的として開催しています。

今年度の科学技術館での開催は、昨年度同様6回を予定しています。

実験教室は40名の定員で2回行いますので、一日80名の子どもたちが参加可能です。なお、参加費は無料です。各回の応募者数は、500名を超えており、かがく（化学）に対する興味の高さがうかがえます。

開催日	先生のお名前	学校名	テーマ
○第1回 5月23日	高梨 賢英	東京学芸大学	洗える墨汁の秘密を調べよう
○第2回 7月4日	宮本 一弘	開成学園中学・高等学校	不思議なカラーマジック！
○第3回 9月5日	宮内 卓也	東京学芸大学附属世田谷中学校	浮いたり沈んだり、ふしぎな浮沈子をつくってみよう
○第4回 11月14日	牧野 順子	品川区立小中一貫校八潮学園	光の不思議
○第5回 1月23日	上村 礼子	都立小石川中等教育学校	草木染めに挑戦しよう
○第6回 3月12日	樋口健太郎	北区立稲付中学校	ものの重さとバランス

第1～2回開催報告

◆第1回◆

第1回の「洗える墨汁の秘密を調べよう」では、墨汁の黒色がある液体を入れると消えてしまう、この秘密を探ってもらいました。薬や飲み物、野菜のしぼり汁等を墨汁に入れ、どれが色を消すのか調べてもらいました。その後、ヨウ素でんぷん反応と酸化還元



反応を利用し、不思議な消える墨汁をうがい薬とでんぷん液で作り、実験で確かめました。実験結果を回答用紙に書き入れてもらい、実験だけでなく検証を行う等、学校での実験さながらに、子どもたちは真剣に取り組んでいました。また、墨汁が透明になる様子に子どもたちはとても興味深げでした。

◆第2回◆

第2回の「不思議なカラーマジック！」では、2つの実験を行いました。1つは、蛍光増白剤入りの洗剤を溶かした水で紙に文字を書き、書いた文字を乾かすと一見何が書いてあるかわからなくなりますが、ブラック



ライト（紫外線）をあてると実は消えたはずの文字が見えるという実験です。最初何をしているのかわからなかった子どもたちも、消えたはずの文字が見えるという不思議な現象を見て、歓声を上げていました。

2つ目の実験は、紫の色素（今回は、むらさきいもの色素）を溶かした水に、キンカン（薬品）を入れると青緑色に変わり、そこにドライアイスを入れると赤紫色に変化、さらに、そこにキンカンを再度入れるとまた青緑色が元に戻るという実験です。酸塩基反応を利用した実験ですが、入れるものによって色が変化する様子に、子どもたちはもちろん、周りで見えていたご家族の方も目を丸くして驚いていました。

実験教室』 開催報告

「エコチルまつり 2015」での開催

今年度は、科学技術館で開催する6回の教室以外にも、東京以外での開催を拡大する予定です。6月13～14日の2日間には、北海道・札幌市で行われた楽しくエコについて学べるイベント「エコチルまつり 2015」に、日協が実験教室を出展しました。

「なぜなに？かがく実験教室ー冷たさ体感！」と題し、科学技術館での開催と同じく45分間で1日2回、計4回、1回あたり30人で計120人の小学生が集まりました。

今回の実験教室では3つの実験を行いました。最初のコップの中のレモン水に重曹を入れる実験では、酸塩基反応により泡が勢いよく出てきて、子どもたちは「ビールみたいだ！」と喜んでいました。

次の実験では、最初の実験で使用したコップの冷たさと、実際に手のひらに載せたクエン酸と重曹の吸熱反応による冷たさを実感してもらいました。

最後は、チャック付きプラスチックバッグに尿素を入れ、水の入ったアルミの袋をその中でつぶすと、尿素が水に溶けるときの吸熱反応でさらに冷たくなるという実験です。当日は初夏の陽気に恵まれたこともあり、みんな「冷た～い！」と歓声をあげていました。実験で使用した尿素ですが、実は融雪剤として使用されているため、北海道では身近な化学品のようで、保護者の方からもいろいろな質問が出ました。また、小学生対象の実験教室があまりないということで、来年以降の実験教室開催を要望する声も多数いただきました。

今年度は、札幌以外に10月に大阪での化学実験ショーを予定している他、来年以降も機会をとらえて、東京以外での「なぜなに？かがく実験教室」の開催を拡大していく予定です。



R C 委員会 だより

☆会員動向 (会員数：111社 2015年7月末現在)

入会

▶ケマーズ株式会社 (2015年6月15日付)

退会

▶ハンティンドンライフサイエンス株式会社 (2015年5月27日付)

☆行事予定

9月17～18日	リスクコミュニケーション研修 (東京地区)	11月4日	APRO 会議 (フィリピン・マニラ)
10月6日	会員交流会 (山口地区)	11月5～7日	APRCC 会議 (フィリピン・マニラ)
10月21～22日	RCLG 会議 (南アフリカ共和国・ケープタウン)		

Responsible Care NEWS

No.78
SUMMER

Index

日化協 第24回 定時総会が開催されました	2
第24回 定時総会における小林会長挨拶	4
安全表彰、技術賞、レスポンスブル・ケア賞の表彰式を実施	5
from Members【第73回】	6
日本カーリット(株) 常務取締役 生産本部長 福田 実さん	8
RCの現場を訪ねて (株)クレハ 樹脂加工事業所(茨城) 石原産業(株) 四日市工場	10
日化協シンポジウム2015	11
「第9回 日化協レスポンスブル・ケア賞」の受賞講演が行われました	12
平成27年度安全シンポジウムを開催	14
平成27年度 上期会員交流会	16
APRO会議	17
日化協LRI賞について	18
TOPICS	19
RC委員会だより	19

表紙写真の説明

大竹工場屋上からの夜景

ダイセル大竹工場は日本で最初の臨海石油化学コンビナートである岩国大竹コンビナート内にあり、1961年に創設されました。工場内では歴史のある設備も活躍していますが、新しい埋立地に新鋭プラントも稼動しています。

株ダイセル提供

編集後記

この季節、駅前の広場で小学生たちがラジオ体操をしています。見かける度にいいなあと思います。一方、故郷では今は夏休みのラジオ体操はしないそうです。とても残念なことです。

7月最後の日曜日、G県の酒造組合が主催する地酒の試飲会に、職場の7名で参加してきました。猛暑の屋下がり、参加証の「お猪口」を手にして、29の蔵元が提供する地酒の数々を次々と味わいます。3時間の制限時間ですべてを味わいつくすつもりも、2時間で限界を迎え帰路につきました。

UD FONT
by MORISAWA

